

「日本玩具博物館」

館長：井上重義

1)東日本大震災によって、活動に何か影響がありましたか？

震災後、親族などを頼って避難されていた方が大勢ご来館になりました。そして皆様から、この館は「心が癒される博物館です」と喜んでいただきました。

中でも心に残るのは、当館は、子供たちが日本や外国のおもちゃで遊べるコーナーがあり、幼子を抱えて避難されていた母親と子供が5月の連休が終わるまで、毎日のように当館に来られていたことです。私たちも事情がわかってからは入館について便宜を払い子供たちも気に入って喜んで遊んでいた姿が心に残っています。

感謝の気持ちを感想ノートに残されています。

2) 震災地域への支援について、既に行なったことや今後の予定、やりたいことなどがありましたら、お書きください。

当館は16年前の阪神大震災で、処分される運命にあった雛人形などを救済する活動を行い、最終的には250組400箱を救済した経験を持ちます。その経験を4月1日に当館HPの館長室から報告しました。

活動内容は、館長室にUPされていますのでぜひご覧下さい。

また文化庁から要請があった「文化財レスキュー」活動支援のため、当館入口にカンパ箱を置いて協力をお願いしましたが、5月末までに5万円を超えるカンパが集まり、文化財保護・芸術研究助成財団に送金しました。

当館として何ができるかを震災発生以来、話し合ってきました。

そして6月1日付で仙台市博物館宛に下記のような内容の展示会の協力要請の文書を送っています。

東北地方の博物館や美術館は、地震の恐れもあって展示会の開催が困難になっているとお聞きしていますが、もしよろしければ、当館が所蔵して各地で好評をいただいています「ちりめん細工展」を開催されればいかがでしょうか。ちりめん細工は布製品でありますので倒れたりしても破損する恐れがありません。それにちりめん細工は12年前に伊豆稲取で始まった雛の吊るし飾りや、6年前から酒田で始まった雛の傘福の飾りなどの影響もあり、東北地方でも関心をもたれている方が大勢あります。何よりもちりめん細工は、優しく美しいので皆様の心の癒しに繋がると思います。

4年前に東京のたばこと塩の博物館で開催しました「ちりめん細工展」は同館

の過去10年間で最高の入館数を記録しましたし、北九州市立小倉城庭園、それに昨年開催した静岡県三島市の佐野美術館でも通常の倍近い来館者があって大きな成功を収めました。

東北地方では過去にちりめん細工展が開催されていませんので、恐らく大きな反響があるものと思いますが、何よりも美しく優しい作品の数々を見て、皆様の心が癒される展覧会になると思っています。

現在、当館所蔵作品の一部が、貴地からは少し離れていますが群馬県高崎市にあります群馬県立日本絹の里で「ちりめん細工の美」として開催されています。もしご関心があるならば一度ご覧いただきますようご案内申し上げます。